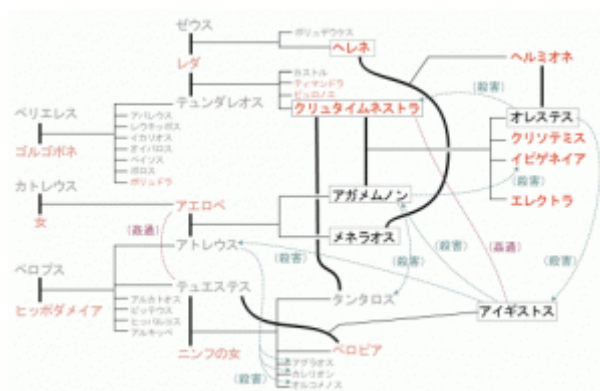


アガメムノンはギリシャ神話で最も有名な英雄のひとりである。彼はミュケナイ王であり、トロイア戦争でギリシャ軍の総大将だった。彼が歴史上の**実在した人物**が、神話の人物かははっきりしない。彼の家系の歴史は伝説の王ペロプスに遡るまで、同性愛・殺人・近親相姦・裏切りが多かった。  
 トロイア戦争では傲慢さによってアキレウスを怒らせ陣営から脱退させた。そのことでアカイア勢は大きな損害をこうむった。  
 戦後はカッサンドラを戦利品に得て、ミュケナイに帰還したが、妻のクリュタイムネストラと情を通じたアイギストスによって殺された。

## 系譜

- 父はアトレウス、母はアエロペ、兄弟はメネラオス。
  - (異説) 父はアトレウスの子プレイステネス、母アエロペ。
  - (異説) 父プレイステネス、母はディアスの子クレオラ。
- 妻クリュタイムネストラとの間に子イピゲネイア (娘)、エレクトラ (娘)、クリュステミス (娘)、イピアナッサ (娘)、オレステス (息子)。



( [画像/系図/アトレウス](#) )

## エピソード

### 青年時代

**父アトレウスが殺される** ミュケナイ王アトレウスは彼の甥のアイギストスに殺された。アイギストスはミュケナイ王位を篡奪し、彼の父テュエステスと共にミュケナイを支配した。この期間、アガメムノンとメネラオスはスパルタ王テュンダレオスの所へ身を寄せた。テュンダレオスの娘にはヘレネとクリュタイムネストラがいた。アガメムノンはクリュタイムネストラと、メネラオスはヘレネと結婚した。

**支配を拡大する** アガメムノンは弟の助けでアイギストスとテュエステスを追放し、父の王権を回復しミュケナイの王になった。彼は支配地を征服によって拡大し、ギリシャで最強の統治者となった。

**クリュタイムネストラとの結婚** クリュタイムネストラは最初はタンタロス (テュエステスまたはプロテアスの子)と結婚しており、一児の母だった。アガ멤ノンがタンタロスとその子を殺して、彼女と結婚することが出来た。クリュタイムネストラはこの罪を決して忘れなかった。

- ・ (異説) タンタロスは赤子の時アトレウスに殺されて、その肉をテュエステスに食事として供された。アルゴスにその墓があるという。

## トロイア戦争

**アウリスに軍勢が集う** メネラオスは妻ヘレネがトロイアの王子パリスにトロイアへ連れ去られたことを知って、アガ멤ノンに彼の妻と財産を取り戻す協力を頼んだ。彼はテュンダレオスの誓約をたてにあって、ヘレネの求婚者だった者たちを召集し、アウリスの地にトロイア遠征の軍勢を集めた。

**偽の手紙** 艦隊は風向きが悪くてアウリスを出発することが出来なかった。アルテミスの怒りによるものだと考えられた。予言者カルカスはアガ멤ノンが娘のイピゲネイアをアルテミスへ生贄に捧げたら出発できるだろうと公言した。アガ멤ノンは、それは父親としては無理であると、艦隊を解散しようと考えた。メネラオスは妻と財産の奪還に熱心だったので、アガ멤ノンを説得し、遂には納得させた。アガ멤ノンは偽りの手紙でクリュタイムネストラとイピゲネイアを呼び寄せた。そこでアキレウスにイピゲネイアを妻に与えると書いたのである。アキレウスはそのことを一切しらなかった。この企みをしていたのはアガ멤ノン、メネラオス、カルカス、およびオデュッセウスだけであった。

- ・ アルテミスが怒っている原因は話によっていくつかある。
  - アルテミスはトロイアで死んでいく若者たちのために怒った (アイスキュロス「アガ멤ノン」)
  - アガ멤ノンがアルテミスに捧げる鹿を射た後、アルテミスと同等の腕前だと奢ったため (ソフォクレス「エレクトラ」)

**イピゲネイアの死** こうしてクリュタイムネストラとイピゲネイアは結婚の代わりに死の待っているアウリスへと誘い出された。そこで彼が娘を犠牲に捧げると、艦隊はアウリスを発ってトロイアへ向かうことができた。クリュタイムネストラはこの罪を許すことはなかった。

- ・ (異説) イピゲネイアが犠牲に供される瞬間、彼女はアルテミスに救われ、祭壇には代わりに鹿が置かれ、彼女はクリミアのタウリスへ運ばれた。そこで彼女はアルテミスの巫女となり、兄弟のオレステスの命を救った。
- ・ (異説) ヘシオドスはイピゲネイアが女神ヘカテーになったと述べた。

## トロイア戦争最後の年

**クリュセスへの侮辱** トロイア戦争十年目に、アガ멤ノンはアポロンの神官クリュセスの娘クリュセイスを捕らえて、戦利品として家へ連れ帰って愛人にしようとした。クリュセスはアガ멤ノンの陣営を訪れて、全軍を祝福すると、多額の身代金を差し出して娘を返すよう頼んだ。軍勢は彼に拍手を送ったが、アガ멤ノンはこれに応じず、傲慢に脅しつけると彼を追い払った。クリュセスはアカイア人に災いあれと祈った。アポロンはこれを聞き届け、オリュンポスから降りて、アカイア人の陣営に伝染病を流行らせた。

**アキレウスとの不和** 伝染病は猛威をふるい、集会が開催された。予言者カルカスは、これはアポロンの神官をアガ멤ノンが侮辱したため、アポロンが怒っているのだと語った。アガ멤ノン

にとって都合の悪い話だったので、彼はカルカスを邪悪な予言者よばわりした。しかし、自分の美しい戦利品を手放すことは同意した。そして代わりに戦利品を誰かから得ると言った。[アキレウス](#)はアガメムノンがいつも莫大な分け前を取り、そのために他人を利用することを非難した。アガメムノンはアキレウスの天幕に行き、彼の恋人[ブリセイス](#)を連れ去り、王の威光というものを思い知らせた。

- [クリュセイス](#)は自由になった後、息子[クリュセス](#)を産んだ。父はアポロンともアガメムノンとも言われている。このクリュセスは後に[オレステス](#)と[タウリス](#)の[イピゲネイア](#)の命を救った。その二人もアガメムノンの子である。

**アカイア勢の損害** [アキレウス](#)との対立で、アガメムノンは天界の不興をかった。アキレウスは女神の子だからである。女神が[ゼウス](#)に頼んだので、しばらくの間[トロイア](#)人が大勝して、アガメムノンと[アカイア](#)人はアキレウスの怒りを思い知らされた。またゼウスは、勝利が近いから攻撃準備を整えよという偽りのメッセージをアガメムノンの夢に送って、彼を欺いた。

(作成中)